

| | | |
|---|---|----|
| 年 | 組 | 名前 |
|---|---|----|

大分県は、2013年の県内の人口動態統計を発表しました。

| 県内の人口動態統計 ▲はマイナス | | | | | |
|------------------|---------|------|---------|------|------|
| | 2013年 | 全国順位 | 2012年 | 全国順位 | 前年比 |
| 出生数 | 9,605人 | 17位 | 9,650人 | 21位 | ▲45 |
| 合計特殊出生率 | 1.56 | 12位 | 1.53 | 13位 | 0.03 |
| 死亡数 | 13,873人 | 32位 | 14,050人 | 32位 | ▲177 |
| 自然増減数 | ▲4,268人 | 27位 | ▲4,400人 | 30位 | 132 |
| 結婚件数 | 5,724組 | 18位 | 5,652組 | 25位 | 72 |
| 離婚件数 | 2,179組 | 37位 | 2,187組 | 30位 | ▲8 |

県は11日、2013年の県内の人口動態統計(概数)を発表した。出生数は全国と同様に過去最少を更新。人口の自然減は続くものの、死亡数が4年ぶりに減少に転じたため、ペースは鈍化した。女性が生涯に産む子どもの推定人数を示す合計特殊出生率は上昇し、第3子以降を生んだ女性が増えた。

県福祉保健企画課は「死亡数は減ったとはいえ、高齢化による増加傾向に変わりはない。今後も人口縮小が続くとみられ、ペースを抑えていきたい」と話している。

出生率が上昇1.56 人数は過去最少を更新

【出生】出生数は9605人で過去最少だった前年よりさらに45人減った。出生順位別で見ると、第1子(4136人)、第2子(3427人)が減少した一方で「第3子以降」は106人増え、2042人となった。合計特殊出生率は0.03増の1.56。

【死亡と死因】死亡数は

前年比177人減の1万3873人。09年以來の減少となった。死因別の1位はがん(25.9%)で肺がんが最多。2位は心疾患(14.7%)、3位は肺炎(10.7%)。乳児死亡率は1.6%。乳児死亡率は1.9%でほぼ横ばいが続いている。出生数と死亡数を差し引いた自然増減数は4268人減で06年以來の減少幅の縮小。

【結婚と離婚】結婚は5724組で前年より72組増えた。平均初婚年齢は男性は30.2歳、女性は28.9歳。06年から男女とも上昇傾向が続いていたが、今回ともに下がった。離婚は8179組だった。

(2014年6月12日朝刊21面)

①人口の自然減とはどういうことでしょうか。2013年の大分県の自然減は何人でしょうか。

.....

.....

.....

.....

②出生率とはどういった数値でしょうか。

.....

.....

.....

.....

③人口が減っていくとどういった困ることがあるでしょうか。考えてみよう。

.....

.....

.....

.....